

「第10回八千代市市民意識調査報告書」について、一部誤りがありましたので、正誤表のとおり、訂正いたします。

10 ページ

8 標本誤差

誤

標本誤差は次式で得られ、①比率算出の基数（n）、②回答の比率（p）によって誤差幅が異なる。

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{2}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

N=母集団数(八千代市の20歳以上人口)
 n=比率算出の基数(回答者数)
 p=回答の比率(%)

今回の調査結果の標本誤差は下記ようになる。

| 回答比率(P) n | 90%または 10%程度 | 80%または 20%程度 | 70%または 30%程度 | 60%または 40%程度 | 50%程度 |
|--------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|---------|
| 1,406 | ±2.26% | ±3.02% | ±3.46% | ±3.70% | ±3.77% |
| 1,000 | ±2.68% | ±3.58% | ±4.10% | ±4.38% | ±4.47% |
| 800 | ±3.00% | ±4.00% | ±4.58% | ±4.90% | ±5.00% |
| 600 | ±3.46% | ±4.62% | ±5.29% | ±5.66% | ±5.77% |
| 400 | ±4.24% | ±5.66% | ±6.48% | ±6.93% | ±7.07% |
| 200 | ±6.00% | ±8.00% | ±9.17% | ±9.80% | ±10.00% |
| 150 | ±6.93% | ±9.24% | ±10.58% | ±11.31% | ±11.55% |
| 100 | ±8.49% | ±11.31% | ±12.96% | ±13.86% | ±14.14% |

※ 上表は $\frac{N-n}{N-1} = 1$ として算出している。なお、この表の計算式の信頼度は95%である。

注/この表の見方

標本誤差とは・・・今回のように全体（母集団）の中から一部を抽出して行う標本調査においては、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがあり、その誤差のことをいう。この誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、その誤差を数学的に計算することが可能である。その計算式を今回の調査に当てはめて算出したのが、上記の表である。見方としては、例えば、「ある設問の回答数が1,406であり、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±3.70%以内（56.30～63.70%）である」とみることができる。

正

標本誤差は次式で得られ、①比率算出の基数（n）、②回答の比率（p）によって誤差幅が異なる。

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

N=母集団数(八千代市の18歳以上人口)
 n=比率算出の基数(回答者数)
 p=回答の比率(%)

今回の調査結果の標本誤差は下記ようになる。

| 回答比率(p) n | 90%または 10%程度 | 80%または 20%程度 | 70%または 30%程度 | 60%または 40%程度 | 50%程度 |
|--------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|---------|
| 1,406 | ±1.60% | ±2.13% | ±2.44% | ±2.61% | ±2.67% |
| 1,000 | ±1.90% | ±2.53% | ±2.90% | ±3.10% | ±3.16% |
| 800 | ±2.12% | ±2.83% | ±3.24% | ±3.46% | ±3.54% |
| 600 | ±2.45% | ±3.27% | ±3.74% | ±4.00% | ±4.08% |
| 400 | ±3.00% | ±4.00% | ±4.58% | ±4.90% | ±5.00% |
| 200 | ±4.24% | ±5.66% | ±6.48% | ±6.93% | ±7.07% |
| 150 | ±4.90% | ±6.53% | ±7.48% | ±8.00% | ±8.16% |
| 100 | ±6.00% | ±8.00% | ±9.17% | ±9.80% | ±10.00% |

※ 上表は $\frac{N-n}{N-1} = 1$ として算出している。なお、この表の計算式の信頼度は95%である。

注/この表の見方

標本誤差とは・・・今回のように全体（母集団）の中から一部を抽出して行う標本調査においては、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがあり、その誤差のことをいう。この誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、その誤差を数学的に計算することが可能である。その計算式を今回の調査に当てはめて算出したのが、上記の表である。見方としては、例えば、「ある設問の回答数が1,406であり、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±2.61%以内（57.39～62.61%）である」とみることができる。